

総合科学教育研究センター

ニュースレター

[センター活動] 福島学見学会および見学報告会を開催

福島出身の医学者の記念館や医療機器メーカーを訪ねる福島学見学会が 11 月 8 日に開催され、見学後には学生による報告会が実施されました。同見学会は、1 年生の必修科目「福島学」の一環として、学生 130 名がそれぞれ「須賀川コース」と「会津コース」に分かれて参加しました。

須賀川コース

① 吉田富三記念館

浅川町立吉田富三記念館を訪れ、がん研究の先駆者・吉田富三のひたむきな研究に対する姿勢や輝かしい業績の一端に触れました。展示には、顕微鏡で見たがん細胞スケッチや自筆の研究資料のほか、趣味の品や実験に使用したネズミを供養する白ネズミの碑など、吉田の人となり語る展示がなされていました。

② ジョンソン・エンド・ジョンソン須賀川事業所

須賀川市郊外の広大な敷地に立つジョンソン・エンド・ジョンソン須賀川事業所は、医療用製品の製造や輸入販売および医療機器の製造拠点であるばかりでなく、エデュケーションセンターが設置されています。見学の前半では、近代的で衛生的な施設を案内してもらい、製造工程におけるさまざまな工夫について学びました。後半は、最新の医療機器をもちいた手術の手技向上のために医師が練習をおこなえるエデュケーションセンターで、学生ひとりひとりが豚の臓器を使った内視鏡手術や縫合を試みましたが、その難しさを痛感したようです。

会津コース

① 野口英世記念館

会津コースでは、まず猪苗代湖畔にある野口英世記念館を訪れ、その事績を偲びました。野口英世は伝記や千円札でおなじみの「顔」ではありますが、学生は、野口を模した精巧なロボットや保存された生家など、工夫された展示に興味をそそられたようでした。

② オリンパス会津工場

次に訪れたオリンパス会津工場は、世界の消化器内視鏡の約 70 パーセントを製造している先進的な精密医療機器の生産拠点です。内視鏡レンズやその周辺機器の製造は、ミリやミクロン単位の世界に属するため、先端機械の導入だけでなく、人の「匠の技」が不可欠であるとのことでした。そのため、レンズ加工技術の「道場」を設置するなど、技術者養成にも心血を注いでいることを学びました。

見学会後の 11 月 22 日、二手に分かれた見学コースの内容や学びをお互いに分かち合うため、各コースで習得したことを発表する報告会が行われました。学生は、グループごとにパワーポイントを作製し、見学先の特徴やその感想を発表しました。発表することによって見学内容の理解がいつそう深められ、さらに、わかりやすく伝えようとする中で、プレゼンテーション技術の向上にも寄与できたのではないかと思います。

余談ですが、オリンパス工場の社員食堂における安価で多様な昼食メニューに注目した発表もあり、学生の大学食堂への憧憬が垣間見られる一場面もありました。



見学報告会の様子

本見学会は天候にも恵まれ、順調に日程をこなすことができ、また、見学報告会も無事に終えることができました。

見学させていただきました吉田富三記念館、ジョンソン・エンド・ジョンソン須賀川事業所、野口英世記念館、オリンパス会津工場、の担当者の皆様にはたいへん御世話になりました。

なお、本見学会は、基礎や臨床から教員の派遣を仰いて行われる全学的な取り組みとなってい

ます。

ジョンソン・エンド・ジョンソン須賀川事業所における内視鏡手術、縫合等の練習では、岡田良（肝胆膵・移植外科学）、作山美郷（乳腺外科学）、尾崎有紀（呼吸器外科学）、藤宮剛（心臓血管外科学）、松本理（心臓血管外科学）、楡井東（消化管外科学）の諸先生にご指導をいただきました。

また、見学会の準備や当日の連絡等で、加藤倫子氏をはじめとする教育研修支援課の皆様にご尽力をいただきました。

最後に、当日の引率では、以下の先生方に御世話になりました。この見学会にご協力いただいた方のお名前を記し、感謝の意を表したいと思います。

坂井晃（放射線生命科学）、尾形裕介（免疫学）、増石有佑（衛生学・予防医学）、小林大輔（細胞統合生理学）、志村清仁（自然科学）、長井俊彦（自然科学）、藤野美都子（人間科学）、福田俊章（人間科学）、末永恵子（人間科学）

（人間科学領域・末永恵子）■

[学術学会等行事カレンダー]

月	日	学会・討論会
4	20	第 15 回医薬品評価フォーラム（東京）
5	10-12	ナノ学会第 16 回大会（東京）
	18-20	日本哲学会大会第 77 回大会（神戸大学）
	26-27	第 20 回マリンバイオテクノロジー（宮崎）
	31-6/1	第 13 回日本分子イメージング学会（東京）
6	11-13	日本ケミカルバイオロジー学会第 13 回年会（東京）
	21-22	構造活性フォーラム 2018（京都）
	23-24	日本言語学会第 156 回大会（東京大学本郷キャンパス）
	29-30	第 28 回金属の関与する生体関連反応シンポジウム（東北大学）
7	6-7	日本法中毒学会第 37 年会（昭和大学）
	18-20	第 45 回日本毒性学会学術年会（大阪国際会議場）

月	日	学会・討論会
8	27-28	第 30 回微生物シンポジウム（城西国際大学）
	7-8	第 31 回バイオメディカル分析科学シンポジウム（九州大学）
9	8-9	日本認知言語学会第 19 回全国大会（静岡大学）
	19-21	第 65 回有機金属化学討論会（同志社大学今出川キャンパス）
	25-28	日本心理学会第 81 回大会（仙台国際センター）
10	7-8	第 22 回天然薬物の開発と応用シンポジウム（熊本大学）
	24-26	第 77 回日本公衆衛生学会総会（福島）
11	17-18	日本言語学会第 157 回大会（京都大学）
	28-30	第 36 回メディスナルケミストリーシンポジウム（京都）
	24-25	日本英語学会第 36 回大会（横浜国立大学）

【コラム】教養としての周期律表：ケイ素（Si）

今回は、ケイ素について紹介します。

ケイ素は、地殻を形成する元素の中で 3 番目に多い元素です。

さて、このケイ素、およびその化合物は、石器時代から現代まで、人類の発展には欠かせないものです。例えば、石器時代には、狩猟や料理のための石器としての利用があり、その後、ガラスの発明に至り、現在では、高速通信に必要な光ファイバー、太陽光発電におけるシリコン半導体、シリコン樹脂等、多種多様なものが発明され、利用されています。

これらは、いずれも現代社会を成立させるためには欠くことのできないものであり、今後も新しい機能を持つケイ素化合物が生み出される可能性があります。

さて、生物が炭素を中心とした元素から成り立っているのに対し、炭素と類似した立体構造を持つケイ素が、生物を作ることができなかった点に関しては興味深いところもありますが、もしかすると、どこか別の惑星でケイ素を中心とした生物がいるかもしれません。

（自然科学領域・谷口暢一）■

発行機関 〒960-1295 福島市光が丘 1 公立大学法人 福島県立医科大学 総合科学教育研究センター
編集者代表：医学部自然科学講座 谷口暢一 看護学部総合科学部門 中山仁
連絡先：E-mail: icsh@fmu.ac.jp
センターHP：<http://www.fmu.ac.jp/home/icsh/?x=cat:1>